



2016・2・11

第 229 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 戦争法廃止、九条改憲発言抗議を結びつけ

### 九条の会が緊急記者会見

九条の会は 2 月 8 日緊急記者会見をおこない、別項のアピール「安倍首相の九条の明文改憲発言に抗議する」を發表しました。

記者会見には、呼びかけ人の澤地久枝さんと小森陽一事務局長ほか事務局メンバーが参加しました。

小森事務局長がアピール文を紹介したあと、澤地さんが要旨次のような発言をしました。

「こんなあわただしい粗末な形で憲法を否定する事態は、予測しながらも実現するとは思っていませんでした。アメリカが戦争を起せば日本の自衛隊は共同歩調をとることになり、私たちが絶対にやらないと 70 年前に誓った戦争がもう一度よみがえってきます。

安倍首相がどんなにつぶそうとしても、全国に広がった『九条の会』はつぶせません。全国各地の人びととともに手をとりあい、そのつながりを大切にしていくことで、私たちは負けません」

### 安倍首相の九条明文改憲発言に抗議する

安倍晋三首相は、2 月 3 日と 4 日と 5 日

の連日、衆議院予算委員会の審議において、戦力の不保持を定めた憲法 9 条 2 項の改定に言及しました。その際に、「7 割の憲法学者が自衛隊に憲法違反の疑いをもっている状況をなくすべきだ」という逆立ちした我田引水の理屈や、「占領時代につくられた憲法で、時代にそぐわない」という相も変わらぬ「押しつけ憲法」論などを理由に挙げました。これらは、同首相が、憲法 9 条の意義を正面から否定する考えの持ち主であることを公言するものに他なりません。

昨年 9 月、政府・与党は、多くの国民の反対の声を押し切って、日本国憲法がよって立つ立憲主義をくつがえし、民主主義をかなぐり捨てて、9 条の平和主義を破壊する戦争法（安保関連法）案の採決を強行しました。この時は、「集団的自衛権の限定行使は合憲」、「現行憲法の範囲内の法案」などと、従来の政府見解さえからも逸脱する答弁で逃げ回りました。ところが今度は、そうした解釈変更と法律制定による憲法破壊に加えて、明文改憲の主張を公然とするに至ったのです。それは、有事における首相の権限強化や国民の権利制限のための「緊急事態条項」創設の主張にも如実に現

れています。

私たち九条の会は、自らの憲法尊重擁護義務をまったくわきまえないこうした一連の安倍首相の明文改憲発言に断固抗議します。2007年、9条改憲を公言した第1次安倍政権を退陣に追い込んだ世論の高揚の再現をめざして、戦争法を廃止し、憲法9条を守りぬくこと、そのために、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。

2016年2月8日 九条の会

## 参院選での共闘を野党に申入れ

【青森県／青森県九条の会】 青森県九条の会（金澤茂共同代表）は2月1日、県庁で記者会見を開き、県内の5野党（民主党、共産党、社民党、維新の党、生活）に対し、今夏の参院選青森選挙区で戦争法の廃止を目指す候補者の一本化にむけ協議するよう要請したと発表しました。弘前や八戸など、県内で活動する各地域九条の会の代表者も同席しました。

金澤代表は、参院選は「憲法無視の安倍政権をかえる絶好の機会」と強調。「今は国難の時。国民の思いを実現するため、野党各党が礼儀を尽くし話し合うべきだ」と述べ、戦争法廃止、立憲主義回復を軸とする政策合意による候補者一本化への協議を早期に開始するよう求めました。

## 超党派の会がシンポジウム

【宮城県大崎市／大崎市議会議員の会】 大崎市の「国民合意のない安保関連法を廃動させない大崎市議会議員の会」は1月30日、安保関連法を市民と考えるシンポジウ

ムを開き、約100人が参加しました。

「会」は市議30人のうち、自民党員を含む保守系会派の議員など超党派の13人が参加、昨年は地元選出の自民党国会議員に要望書を提出、街頭でのリレートーク、勉強会などの活動をしてきました。代表の佐藤仁一氏は、「シンポで皆さんの意見を聞いて今後の行動指針を決めたい」と話しました。

シンポジウムでは、佐々木健次弁護士が講演。吉野作造記念館の大川真館長が中国脅威論に対して「日・中・米の3カ国の間で衝突を避ける話し合いがもたれている。安全保障は（戦争を）『やれるぞ』と言うより『やらない』と言う方が安心できる」と訴えました。

遺族会の会員や9条の会会長、農協理事、商店街組合理事長らが発言し、古川台町商店街振興組合理事長の西巻英明氏は「訳のわからないうちに採決され、危機感を感じた。安倍首相は米議会で成立を約束したが、本当に日本の防衛のためなのか疑問に思う」と述べました。

「会」代表の加藤雄市氏は「安保関連法はこのまま受け入れるわけにはいかない。これからも市民の皆さんと会の輪を広げていきたい」と呼びかけました。

## 2000万署名の取り組みを交流

【島根県／憲法九条の会ネットワーク】

「島根憲法九条の会ネットワーク」は1月30日、しまね九条の会全県交流集会を開きました。60人が参加し、戦争法廃止の2000万署名の取り組みなどを交流しました。

島根大学9条の会・大学人の会事務局の関耕平法文学部准教授が特別報告。市民運

動や野党との共同、しまね総がかり行動実行委員会の立ち上げにふれ、「地域での共同を具体化するのには9条の会の重要な役割。戦争法廃止の野党統一候補の実現は署名の成否にかかっている」と強調しました。

大田・9条の会代表は、大田市議会が集団的自衛権行使容認の閣議決定に反対する意見書を不採択にしたことに、民主、社民、共産と連合・労連が合同で抗議集会を開いたが、戦争法撤廃を求めた意見書では保守系の一部も賛成に回り、本会議では逆転可決されたと報告。昨年12月に発定した美郷・9条の会代表も活動を紹介しました。

## 署名行動で5人が入会

【山形県高畠町／高畠九条の会】 山形県の高畠九条の会（伊沢良治共同世話人）は2月7日、高畠町内で戦争法廃止の2000万署名行動に取り組みました。

ビラを配りながら町内の家庭を訪問し、安倍政権の戦争する国づくりを許さないためにと、署名を訴えました。

署名した60代の男性は「安倍政治は危ない、このままではだめだ」と話しました。理容業の女性は、「安倍さんは怖い人だ。戦争はいけないし、武力で平和はつくれない」と話しました。

行動で新たに5人が九条の会に加入、加入した60代の男性は「このままでは平和が脅かされる。安倍首相は多数のおごり、自民党の国会議員は安倍首相に逆らえない。頑張っていきたい」と話しました。

## 「3の日」行動、各地で

【秋田県秋田市・潟上市／九条の会】

「アベ政治を許さない」ポスターを一斉に掲げるスタンディング行動が3日、秋田市と潟上市などで行われました。

秋田市では「あきた九条の会」などが呼びかけ、吹雪の中、アーケードで宣伝・署名。ビラを配り、2000万署名への協力を呼びかけました。悪天候で人通りの少ない中でしたが、午後1時ちょうどにポスターを掲げ、安倍政権退陣をアピールしました。

潟上市では「潟上九条の会」がスーパー前で行動。今回が初めてのスタンディングで、買い物客や通りがかりの車などから注目を集めました。同会は今後も行動を続ける予定で「戦争法を許さない私たちの意思を、地域の街頭でアピールしよう」と呼びかけています。

【長野県伊那市／九条の会伊那市連絡会】 九条の会伊那市連絡会の呼びかけで、3日アピール行動が行われました。穏やかな日差しの中、各地域の九条の会からのぼり旗や横断幕を持ちより、23人が参加しました。節分のイベントから鬼の衣装を借りてきた参加者は、金棒と「アベを許さない」のプラスターを持ち通行する車にアピールしました。

スピーチでは、「憲法違反の戦争法は許せません。鬼も怒っています。廃止まで行動しましょう。2000万署名にご協力ください」と訴えました。

東春近（ひがしはるちか）九条の会から参加した伊藤敬子さん（59）は「アベ政権に危機感を持っている。原発事故が収束していないのに原発を外国に売り込み、武器も売り込んでいる。武器で平和はつくれない。集まって行うスタンディング行動でア

ピール度と連帯感をアップさせ、戦争法廃止まで運動を続けたい」。62歳の女性は「高遠（たかとお）地域の2000万署名は1000人が目標。手を振り激励してくれる住民の気持ちを署名で集めたい」と語りました。

「今回は、通行人が多い場所で2000万署名と一緒に取り組みたい」と語る参加者も。

この日の行動は県下各地で取り組まれ、集約できただけでも320人が参加しました。

## 40年来の自民黨員も戦争法反対

**【秋田県／九条の会秋田県連絡会】** 九条の会秋田県連絡会は1月31日、秋田市内で中野晃一上智大学教授を迎え新春講演会を開き、550人余が参加しました。

秋田弁護士会の三浦広久副会長が連帯のあいさつをしました。

中野教授は「安倍政権の戦争法、経済、労働などすべての政策は先々を考えていない」と批判。「戦争法反対で立ち上がった若者や女性たちが空気を変えた。これに応え、違いを認め歩み寄って共同し、議会の中に届けることができるのが重要だ。参院選挙で連帯しよう」と訴えました。

会場から「自民黨員になって40年、今ほど後悔していることはない。安倍首相を代えなければダメだ。何となく現職を支持するような雰囲気がつくられるが、それが与党を甘やかす」と男性が発言。

会場前では2000万署名も行われ130人分を超える署名が集まりました。

## 母親と保育士がいっしょに学習

**【札幌市東区／光星はとぼっぽ9条の会他】** 札幌市東区的光星はとぼっぽ9条の

会、みかほ9条の会、ぼぷら9条の会は1月27日、光星はとぼっぽ保育園で、第11回憲法9条を守るつどいを開き、子連れの母親や保育士、地域の人たち31人が参加しました。

「明日の自由を守る若手弁護士の会」の川上麻里江弁護士が「戦争法廃止に向けて！私たちにできることは」と題して講演。改憲の入り口として安倍首相が狙う緊急事態条項について、戦争法を実行に移す体制づくりだと批判し、「2000万署名を集めて戦争法廃止、立憲主義を取り戻すためがんばりましょう」と呼びかけました。

初めて参加した20代の保育士は「憲法を学べてよかった。子どもたちも保育士も一緒に楽しめました」と感想を話しました。

## 「主権者の自覚をもって運動を」

**【名古屋市熱田区／あつた九条の会】** 熱田区の「あつた九条の会」は1月30日、同区の労働会館東館ホールで結成10周年記念のつどいを開き、160人が参加しました。

「八法亭みややっこ」こと飯田美弥子弁護士が「憲法晰～歴史に学び、未来を志向する日本国憲法」と題し講演。落語調で会場を沸かせながら、自民党の改憲草案や安倍政権の「戦争する国づくり」などを批判し「私が国の主人公だという自覚を持って運動しよう」と強調しました。

熱田区では戦争法廃止署名は1月末現在、世帯数の1割を超える6200人以上集まっています。

参加者から「一人ひとりが周りの人と話し、現憲法の良さを伝えていかなくては」の感想が寄せられました。